

濫用の恐れのある成分に 係る先行研究調査

2023年12月21日
津川 友介

濫用の恐れがある成分の感冒症状に対する有効性は、エビデンスから判断するには限定的、もしくは不透明（そもそもウイルス感染である風邪を治す効果はなく、あくまで対症療法にすぎない）

濫用の恐れのある物質の有効性

成分	有効性*1	概要
コデイン	なし	咳止めとして利用されているが、大人、小児を問わずプラセボ群と比較して有効な効果が示されていない
プソイド エフェドリン	不確実/限定的	鼻炎薬として、単回の利用での症状改善率は6%程度で、複数回利用すると更に効能は低下する、
エフェドリン		風邪の症状に対する治療をまとめたレビュー論文、UpToDate上での診療ガイドラインでは記載を確認出来ず
ジヒドロ コデイン		
ブロモ バレリル尿素		
メチル エフェドリン		

*1 有効性の評価はUpToDateの基準を利用。確からしい、不確実/限定的、なしの三段階に区分

参考文献

Sexton et al, *The common cold in adults: Treatment and prevention*, UpToDate

DeGeorge et al, *Treatment of the common cold*, American Family Physician 2019

Smith et al, *Over-the-counter (OTC) medications for acute cough in children and adults in community settings*, Cochrane Database Syst Rev 2018

濫用の恐れのある成分による治療と比して、感冒症状への有効性が同等以上と示されている治療は他に多数存在するため、そちらへの置き換えを推し進めるべき

感冒症状の治療

治療	有効性*1	概要
鎮痛薬	確からしい	アセトアミノフェン、NSAIDsなどの鎮痛薬は頭痛、倦怠感、くしゃみなどの症状に対して有効性が示されている
クロモリン ナトリウム	確からしい	同薬の服用による鼻漏、喉痛、咳などの症状改善への有効性が認められている
イプラトロピ ウム臭化物	確からしい	経鼻による服用が、鼻漏、くしゃみなどへの効果改善に繋がると先行研究により示されている
デキストロ メトルファン	不確実/限定的	程度は限定的であるものの、風邪による急性の咳に対する効果が示唆されている
鼻うがい	不確実/限定的	研究のサイズなどから信頼性は限定的だが、鼻詰まり、鼻漏などの症状の改善を示唆
はちみつ	不確実/限定的	小児に対しての効果が顕著だが、大人においても咳の激しさ、頻度の双方を改善する可能性が示唆されている

*1 有効性の評価はUpToDateの基準を利用。確からしい、不確実/限定的、なしの三段階に区分

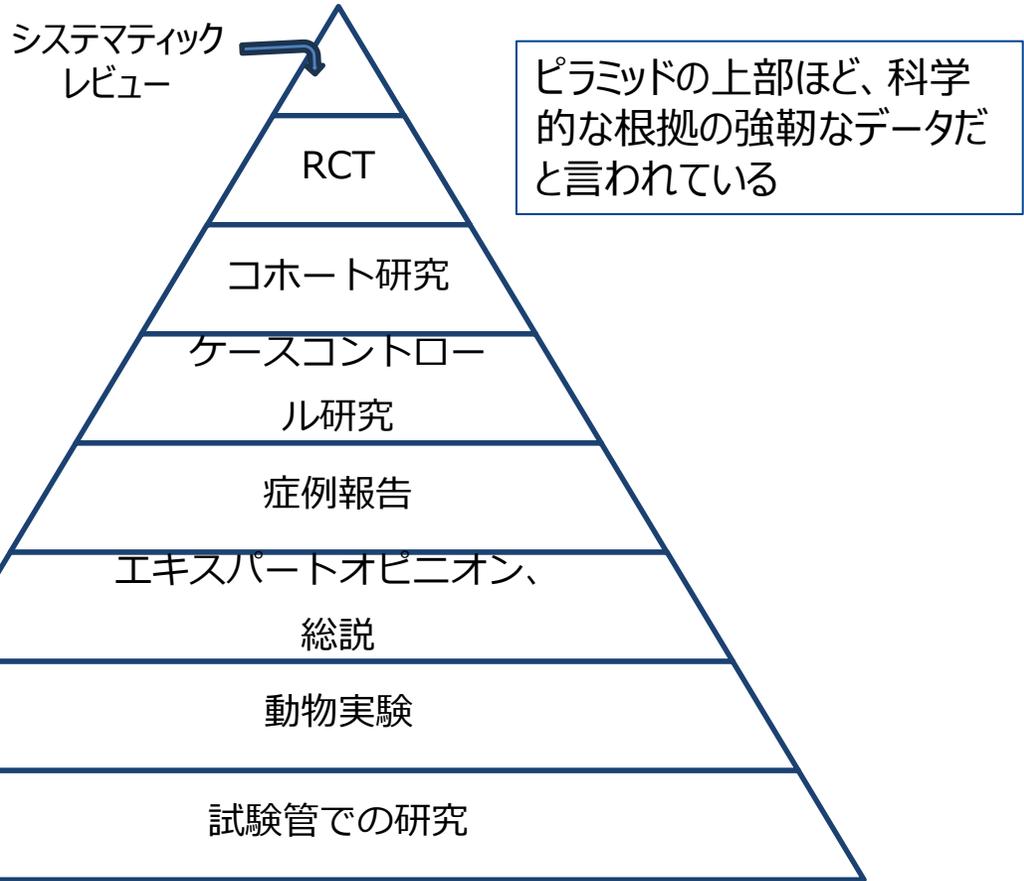
参考文献

Sexton et al, *The common cold in adults: Treatment and prevention*, UpToDate

厚労省は濫用の恐れのある成分にも薬効が示されていると主張するが、そのエビデンスレベルは概して低い（濫用による一般国民への健康被害のリスクと比べて、有効性が不確実かつ小さい）

濫用の恐れのある成分の薬効

エビデンスレベル



厚労省提出の薬効

厚労省が濫用の恐れのある薬効の根拠をまとめた資料を確認したところ、全13出典につき

- 動物実験→10例
- 教科書等解説書→3例

と、エビデンスレベルの低い動物実験のデータが大半である一方、RCTやシステマティックレビューによる結果は見られず



3pのスライドで紹介したように、エビデンスレベルの高いシステマティックレビューにおいて効果が示唆され、米国のガイドラインでも推奨されている治療は他に多数存在しており、濫用の恐れのある諸成分の置換を進めていくべき